NPO萩まちじゅう博物館 設立20周年記念誌

育んだ20年これからの挑戦



2004 - 2024

目 次

NPO萩まちじゅう博物館設立趣旨…… 2

理事長あいさつ…… 3

市長メッセージ…… 4

特別寄稿「萩まちじゅう博物館の新たな20年を展望する」…… 5

設立20周年表彰者…… 9

わたしたちの活動紹介 …… 10

会員からのメッセージ …… 15

NPO萩まちじゅう博物館20年の歩み…… 23

編集後記 …… 26



NPO萩まちじゅう博物館　設立趣旨

萩には、毛利藩政期260年間に形成された城下町のたたずまいが今日まで継承されており、日本で唯一の「江戸時代の地図がそのまま使えるまち」となっています。

これまでも貴重な歴史・文化資源として維持、保存が図られてきた史跡や文化財に加え、萩のまちには、観光客も、そしてもしかすると私たち市民でさえ気づいていない、史実や伝承、自然や町並み、産業や人々の暮らしなどの貴重な「都市遺産」が息づいていると考えられます。

現在、萩市では、都市遺産がいたる所にかけがえのない姿で残る萩のまち全体を一つの博物館として捉え、これらの保存及び活用によるまちづくり、観光地づくりの取り組みを「萩まちじゅう博物館構想」と名付け、萩の更なる魅力づくりが市民と共に展開されようとしています。

この「萩まちじゅう博物館構想」に基づき、市民及び行政と協働して、萩市の都市遺産を再発見し、その情報の管理や活用などを行うことで、都市遺産を守り育て、次世代に継承していくことを目的として特定非営利活動法人NPO萩まちじゅう博物館を設立します。

（平成16年６月18日　設立総会）



ごあいさつ



NPO萩まちじゅう博物館　理事長　伊　藤　富　之

NPO萩まちじゅう博物館は、萩まちじゅう博物館構想を進める市民団体として、2004年（平成16年）６月に設立されました。この年は、萩開府400年の年であり、萩市はその記念事業として萩博物館を整備され、11月11日に開館されました。

この萩博物館の整備に当たって、市は萩まちじゅう博物館構想を提唱、これをまちづくりの基軸として取り組みが開始されました。歴史・文化などの資源を生かし、市民とともにまちづくりを進めようというこの取り組みは、全国でも大いに注目されるものとなりました。

この萩まちじゅう博物館構想を市民の立場で進めていくことを目的に本法人は設立され、萩博物館の管理運営を担うとともに、萩まちじゅう博物館構想推進の取組みを進めてきました。会員各位の尽力により、ワンコイン・トラスト運動や筋名復活事業、市内各地域のお宝を再発見する文化遺産活用事業など特色ある活動に取組んできました。現在では、６つのボランティア活動部門と６つの学芸員サポート活動部門でボランティア活動を進めるとともに、６つの有償班が萩博物館の管理運営に当たり萩博物館の魅力づくりにも大きく寄与しています。

これに加え、平成22年度には道の駅萩往還・松陰記念館の管理委託、平成23年度からは萩セミナーハウスの管理委託をそれぞれ受託し、萩まちじゅう博物館の推進に努めています。また、平成28年度からは江戸時代の地図がそのまま使える町として、古地図で歩くまち歩きの取組みを開始し、都市景観大賞を受賞するなど好評を得ているところです。

こうした活動が評価され、令和６年度の萩市教育文化奨励賞文化の部功労賞を受賞しました。これは、平素の会員の活動が大きく評価されたものであり、20周年の受賞で大変意義深いものであります。

さて、20周年を迎えた本法人にとっての課題もあります。

一つは、高齢社会の到来と市内人口の急激な減少、定年制の延長等の社会環境の大きな変化の中で、会員の拡大を図っていくという問題です。会員の輪を拡げることにより、より充実したパワフルな活動を進めていくことができます。

また、観光施策の中でのまちじゅう博物館の推進と本法人のプレゼンスの向上も法人に課せられた課題の一つであります。

いずれも大きな課題でありますので、今後、会員の皆さんを初め関係各位のご指導、ご協力をいただきながら取組みを進めていきたいと思うものです。

この20年、会員各位のご尽力により法人活動は発展し、萩市のまちづくり活動の範となってきました。今後も会員の皆さんの力によりまちじゅう博物館推進の活動を力強く進めていきたいと存じます。

活動にご尽力いただいてきました会員の皆様に改めて深甚より感謝申し上げるとともに、関係各位のご支援、ご協力に感謝申し上げ、20周年を迎えてのごあいさつといたします。

令和６年11月

市長メッセージ



萩市長　田　中　文　夫

NPO萩まちじゅう博物館が設立20周年を迎えられますこと、心からお祝い申し上げます。

貴法人の理事長をはじめ会員の皆様におかれましては、20年の長きにわたり、萩市のまちづくりの基軸である「萩まちじゅう博物館構想」の推進に多大なるご尽力を賜っておりますこと、心より感謝申し上げます。

また、貴法人におかれましては、萩博物館の開館とともに、当館の受付、展示室のガイドから守衛・清掃など博物館の運営全般を担われてきました。それに加え、レストランとショップを自主運営する先駆的な取り組みは、まさに官民協働の博物館の先駆的なスタイルとして評価されました。

現在も、12の無償ボランティアグループが活動しており、民話語り部班や花と緑の推進班、自然おたから班などの自主活動や、天文班、あい班、民具班など、萩博物館の学芸活動へお力添えをいただいておりますこと、重ねて感謝申し上げます。

さらに、近年は、古地図を片手にまちを歩くガイドの活動も活発になり、観光の一端を担っていただいております。
まさに、こうした様々な分野から、皆様の得意なことや好きなことを活かした地域づくりに関わる活動こそ、萩まちじゅう博物館の根幹であると言えます。

会員のみなさまには、この20周年を機に、これまでの活動をより一層進められていただくとともに、次の時代に繋がる新たな活動が生まれるようなチャレンジや、仲間づくりに取り組まれ、貴法人がますます発展することを大いに期待しております。

萩まちじゅう博物館の新たな20年を展望する



北海道大学観光学高等研究センター　教授　西　山　徳　明

はじめに

萩まちじゅう博物館20周年、おめでとうございます。

2004年に始まった「萩まちじゅう博物館」の取組みは、市が施策の柱に位置づけてから23年、開館から20年が経った今も、三代にわたる市長に引き継がれ、かわらず施策の中心を担い発展している全国的に見ても希有なまちづくり事例です。

この萩まちじゅう博物館の20年間の経緯を改めてふり返り、すでに実現している取組みや途上の取組みを解説しながら、そのコンセプトとなったエコミュージアムによる遺産マネジメントと観光まちづくりの可能性について考えようと、先般、拙著「新・萩まちじゅう博物館」を『萩ものがたりNo.84』として刊行させて頂いたところです。

エコミュージアムは人が住む生きた遺産＝リビング・ヘリテージを住民自らの手で保存・保全しながら観光に活用していく最適の仕組みと言えます。筆者がこのエコミュージアムという考え方に最初に出会って数年が過ぎた1998年、浜崎の伝統的建造物群保存対策調査に携わっていました。この調査の一環として旧萩城下町（川内地区）の歴史的景観資源調査を行ったのですが、これがきっかけとなり、2000年から萩市立の総合博物館「萩博物館」の建設プロジェクトに関わる機会を頂き、エコミュージアム概念を実際の地域に実装するチャンスを得ました。

それから足かけ4年間、いわば日本型エコミュージアムのモデル開発に携わることができ、提案した「萩まちじゅう博物館」は、コア博物館となる新たな萩博物館とともに2004年11月に同時開館しました。この準備段階で、海外のエコミュージアム先進事例調査や萩まちじゅう博物館の条例・構想・計画策定、NPO設立等々に携わることができたことは大変な幸運でした。

さらにこの萩モデルが偶然、国際協力における観光開発のあり方を模索していたJICA（国際協力機構）の目にとまります。このモデルは、2007年からのヨルダンを皮切りに、技術協力プロジェクトとしてジンバブエやフィジー、ペルーといった開発途上国や途上地域における観光開発への技術支援に使われることとなり、今なお日本による観光まちづくり支援のお家芸の一つとして展開しています。

発展する萩まちじゅう博物館

萩市は、開館から16年が経った2020年度に萩まちじゅう博物館の基本構想・基本計画・行動計画を改定しましたが、筆者もふたたびその手伝いをする機会に恵まれました。そこで得た新たな情報と、まち博の将来像を描いた基本計画をベースにして、これまでの成果と今後の課題について以下に述べたいと思います。

まず今回のまち博基本計画改定は、2020年７月に（一社）萩市観光協会が、地域DMOとしては中国地方で初めて観光庁の「重点支援DMO」に選定されたタイミングと重なり、従来のあり方を継承しつつ、DM（デスティネーション・マネジメント）を強く意識した方向性を加えたものとなっています。

計画冒頭の「将来像の実現に向けたミッション」では、新たな段階として「おたからの活用と創造」により、萩の内外から人々やビジネスを惹きつける、魅力形成とブランド化を掲げています。これらはもちろん、まち博が開館以来、自然、文化、産業、歴史などの資源や景観、環境の価値を発見し保全する「おたからの再発見と共有」をおもなミッション（使命）として活動してきた成果に対し、それらを評価し継続することを前提としています。移住・定住の促進、雇用創造、関係人口の拡大などの萩市の生命線となる課題群を解決する方法として、観光だけではない様々なニーズの人々が全国、世界から萩を目指して訪れるような地域運営（DM）を官民協働で展開しようとする方針の宣言とも言えるでしょう。

「萩まちじゅう博物館」の将来像

萩まちじゅう博物館は、エコミュージアムの基本的理念を堅実に実践してきました。なかでも市民と民間事業者、行政（博物館）との協働は、活動の根幹となるものとして重視されています。そのことは、2021年の「萩まちじゅう博物館基本計画」冒頭のめざすべき将来像の中に、「萩市民がゲストとして楽しむ」「萩市民がホストとしてもてなす」「おもてなしにゲストが満足する」とする３つのシーンとして書き込まれていることからもわかります。

これは、萩市に住むすべての市民や事業者等が、萩まちじゅう博物館の魅力を享受するゲストの役割と、訪問者をもてなすホストの役割の両方を担うことができるまち、そして訪れる訪問者が、観光事業者だけではない地域の人々に出会い、彼らの暮らしに触れることができる、そういうめざすべきまちの姿です。

市民は、「萩まちじゅう博物館」のコア（萩博物館、萩・明倫学舎）やサテライト（地域博物館、おたから）を日頃から繰り返し訪問・体験することで、市外からの来訪客が、そこで驚



き、感動し、楽しむ姿を目の当たりにできます。こうした逆輸入効果は重要です。そうして萩の魅力を再認識した市民が、今度は案内人（ホスト）となって、改めてコアやサテライト、まちなかや店先などあちこちで、わがまちを語るよろこびと誇りを感じながらゲストをもてなすのです。それが個人や世帯、事業の経済収益につながるような活動に展開することももちろん歓迎です。

また、その資源となる身近なおたからの日常の手入れや新たなおたからの発掘、地域や子供たちへの伝承活動等の見守り活動を、市民とコア博物館の学芸員や、萩をフィールドとする研究者・学生が協働して行う。「萩まちじゅう博物館」をめざしてきた訪問客（ゲスト）は、そうした活動を通じて次々と見出され磨きをかけられるおたからを楽しむことができ、期待以上の満足を感じて萩のまちとの関係を深めるでしょう。またその存在を知らずに訪れた客も「萩まちじゅう博物館」に自然に惹き込まれリピーターになります。萩に住む人々や萩と関わりたい人々とが、協働してつくり出す多様なコミュニティや企業体が、そうした萩のおたからを生かした地域活動や経済活動を担い展開することで、持続的に発展するまちづくり・観光地づくりの循環を生み出すという将来像です。

萩まちじゅう博物館の新たな20年に望むもの

先述の拙著「新・萩まちじゅう博物館」には、前項で書いたような今後に向けた期待を込めた提案として、まだ未整備や未実施、あるいは筆者以外は考えてもいないようなことも記述しています。本の最後の【用語解説】にあるそうした期待の取組みに触れながら、今回の講話では、萩の未来についてのお話をさせて頂きたいと考えています。

【用語解説より抜粋】

おたからネットワーク：まちじゅうのおたからを発見し、価値を鑑定し、保存、保全し活用していくための仕掛け。市民組織、民間事業者組織、専門技術者組織、研究者組織、行政組織等が構成員となり、発見されたおたからの鑑定、「萩ものがたり」リストやおたからデータベースへの登録認定をおこなうとともに、おたからを発掘・展示・解説する人材として「おたから専門解説員」「まちかど解説員」「おたからマイスター」を養成します。



おたから専門解説員：おたからネットワークの養成講座を修了して認定されるプロの解説員。まち博のおたからや「萩ものがたり（関連文化財群）」を市民や訪問者に専門的に解説する。まち歩きツアーで活躍する。

おたからマイスター：おたからネットワークの養成講座を修了して認定される市民ボランティアのNPOスタッフ。マネジメントを委託された身近なおたからについて日常の管理やモニタリング（見守り）をおこなう。また市民が身近なおたからを発掘し「まち博」の「おたからデータベース」へ登録申請する活

動のなかで、その調査方法や価値の見出し方・説明方法などを指導する。

まちかど解説員：おたからネットワークの養成講座を修了して認定される市民ボランティアの解説員。特に任務はないが、多くの「まちかど解説員」が「まち博」に展開することで、層の厚いまちづくりとしてのおたからのインタープリテーション（解説）が可能となる。

ゲートウェイ：マイカーやバス等での訪問客が「まち博」に入ってすぐ、車を停めて情報を入手させるための郊外にある案内所。道の駅は重要なゲートウェイの施設となる。

まち博情報スポット：「まち博」のテリトリー内にある店舗や事業所などで、「まち博」の情報スポットとして登録されている民間施設。ここで「まち博」に関する様々な情報を得ることができる。

萩学：「萩が萩であることの意味やその拠り所となる考えや生活・行動様式」を探求する学問または活動。自然・歴史・民俗・美術工芸などあらゆる分野で「萩」についての調査研究を行い、日本の近代化に果たした役割などの地域特性を明らかにする。

萩まちじゅう博物館の研修ビデオ視聴のご案内

先に述べたようにまち博の取組みは、日本型のエコミュージアム開発手法として世界の各地に技術移転されています。筆者らはおもに途上国の文化遺産マネジメントや観光開発に取組む人材を育成するため、現地での技術移転プロジェクトを実施する以外に、日本にそうした人材を招き研修を実施しています。その際に利用する日本のエコミュージアムや観光開発の事例を紹介・解説するビデオを、萩、白川郷、阿蘇、竹富島について作成し活用しています。

お時間の許す方は、ぜひ下記のリンクから視聴してみて下さい。これからの萩まちじゅう博物館の展開に少しでもお役に立てば幸甚です。

JICA研修用「文化的景観／エコミュージアム」ビデオ

【日本語＋日本語字幕 YouTube】

(1) 萩編（1時間23分）
https://www.youtube.com/watch?v=Rpwu_J0jlxg
内容：
1. 萩の文化的景観 30分
2. エコミュージアム（萩まちじゅう博物館）31分
3. 文化的景観のマネジメント 23分

(2) 白川郷編（41分）
https://youtu.be/dsL-RR5Rjmk

(3) 阿蘇篇（38分）
https://youtu.be/-E8n_QNtqWY

(4) 竹富島篇（1時間35分）
https://youtu.be/XZApgs_-SPw

【日本語＋スペイン語／英語字幕 YouTube】

https://www.youtube.com/playlist?list=PLgDx0t4sYtTcSYELgq6vQkOg9Hq_kk2F-

設立20周年表彰者

設立20周年にあたり、設立時から会員として法人の発展に大きく寄与された34名の方々に対し、これまでの功績に感謝し表彰しました。

（受賞者名簿）

秋田　華子	伊藤　邦恵	伊藤　治美	井町　和美
伊豫岡さつき	大橋　恵子	尾崎　洋子	上村　朋子
川久保すみ子	川久保忠人	河野　裕昭	草野　隆司
黒川　建一	郡司　妙子	斉藤久美子	斉藤みよ子
迫田　千鶴	清水　恵子	水津タカ子	末永美智子
須子　義久	田中　　裕	永井　要明	長岡　睦夫
西山　徳明	樋口　尚樹	藤田洪太郎	堀　理恵子
松浦　健夫	村上　　泉	山中　信助	山本明日美
山本　一也	山本　貞壽		

NPO萩まちじゅう博物館で活動する18の班とチーム歩隅見、萩セミナーハウスの活動をご紹介します。

まち博おたから情報班

わたしたちの班では、2009年から萩の各地域に出かけて、古民家や長屋門などについて調査したことをWEBサイトで公開しています。

古い建造物の価値が見直され、多くの方に見ていただき、観光資源としても活用されることを目指しています。そのあと、萩三角州内の土塀や石垣・石塀の調査もしました。最近は、「季節の風物詩」として萩のお祭りや伝統行事や四季の風景、「お寺が面白い」として、お寺に伝わるお宝や物語を取材し、公開しながら今に至っています。今までの調査取材内容は、WEBサイト「萩の町筋に遺る古民家や長屋門」でご覧ください。萩の各地域に出かけ、おたからを取材することにより、新しい発見があり、萩への愛着も湧いてきます。

わたしたちの班活動に興味・関心のある方は一緒に活動してみませんか。



外国語班

萩博物館開館当初より外国人観光客をやがて迎えるようになるであろうと、この素晴らしい博物館を国際化を進める館の表示物や展示ケースにある日本語 Captions を英語に翻訳するようにし、例えば“萩学”展示室を Hagi Shi Historical Exhibitions Hagiology Exhibition Room と Hagiology と外国からの来客者に理解してもらえるか尋ねるととても誉めていただきました。

市内の史蹟の“三矢のおしえ”等様々な史蹟の英文説明を作成しました。



民話語り部班

民話語り部班は、古参の活動班の一つです。現在、会員数７、８名で、毎週土曜日午後１時半から、当館で紙芝居と民話の定期上演を行っています。写真はエントランスでの上演の様子です。お祭りなどでのご依頼があれば出張上演も行っています。全部で30を超える演目のうち、「至誠の人 吉田松陰」や「大蛇伝説のなぞ」などが最も上演回数の多い演目となっています。年間の総観客数は一昨年が339名、昨年が403名で、そのうち四分の一が小さなお子さん達でした。「感動した」とか「面白かった」などの評価を頂くこともあり嬉しい限りです。目下、新入会員募集中です。



研 修 班

NPO萩まちじゅう博物館　ボランティア活動　研修班の紹介をします。

班の立ち上げは萩博物館発足の翌年、平成17年にスタートしており、コンセプトは、萩に埋もれた歴史、偉人等の事蹟を学び、調査し、まとめた結果を発表する。その事により、「仲間づくり」であったり、「生きがいづくり」とすることです。

現在の班員は21名という大所帯で、萩の皆さんが総じて歴史好きということが伺えます。班員の発表については、それぞれのやり方でオリジナリティある発表になっており、内容については、新たな発見、「へえ〜そうなんじゃ〜」とか。語り継いでいく力は微力ではありますが、萩博物館発展の一助になればと思います。



花と緑の推進班

花と緑の推進班は、博物館を訪れる方に気持ちよく過ごしていただけるよう季節ごとに館内にお花を展示しています。今年度は班員16名でスタートしました。班員の皆さんは暑さや寒さにも負けず元気と明るい笑顔で協力して活動しています。

・年３回季節の花をプランターに花の植栽をする。
・大菊の３本仕立てをする。
・花壇の整備をする。
・各自交代で水やりをする。

館内の他、松陰記念館、萩セミナーハウスにも季節の花や菊の展示をしています。

☆設立20周年記念行事として樹木医の草野氏による館内の樹木の観察会を行いました。



自然おたから班

自然おたから班は平成24年４月 学芸サポート海洋班から分離、自主活動グループとして活動しています。

萩付近の海岸でタカラガイなどの貝殻やシーグラス等自然のおたからを採集しています。また、自然おたから班専用の標本作りにも取り組んでいます。

萩の海の魅力を未来に引き継ぐ調査・研究に取り組む萩博物館の海洋生物部門から提供された萩付近で採集可能性のある貝のリスト「熱帯性貝（タカラガイ30種を含む222種）・珍しい貝（希少種148種）」は博物館に提供。タカラガイは「萩博物館調査研究報告」第19号に掲載されています。

余品は博物館「探Qはぎ博」展示室の「シェリングバー」で入館者に貝殻採集の疑似体験を楽しんで貰い、好きな貝をプレゼントしています。

NPOまち博のイベントで貝殻やシーグラスを使用したワークショップに参加しています。



受付班

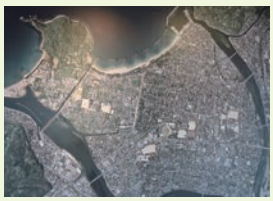
私達受付班は、お客様を笑顔でお迎えし、気持ち良くお帰り頂ける様に心掛けております。

インバウンドにより、当館にも海外から来られるお客様が増加傾向にあります。

24年11月からは、キャッシュレスレジの導入により、クレジットカードやスマートフォンでのお支払いも可能となりました。また、お客様の観光やイベントなどのお尋ねにも丁寧に正しくお応えできる様に努めています。



ガイド班



萩博物館20周年を迎えて

設立20周年おめでとうございます。

一口で20年と言っても、今日に至るまで、いろいろなご苦労があったと思います。

私は設立当初からではありませんが、ガイド班に席を置き博物館に来られたお客様に、展示物の説明、それに供なう毛利の話、萩城の話などをします。入ってすぐにお客様の目に止まるのは、萩の航空写真、これを見ながら博物館の位置、城の場所、寺町の黒い点々（これがお墓）、人工の川、もちろん萩は、三角州の中に出来た町と話すと、とても興味を持って聞いて下さいます。

その次が、縦に展示してある魚（リュウグウノツカイ）、初めてご覧になる方が多く、「こんなに大きいの!?」とビックリ。でも実は本当の色はと、剥製の魚を指すと二度ビックリ。ひとしきり終わると、次は歴史のコーナー、毛利の上級武士の一角。お成道次のビックリは、夏みかん!!3～5個でお米一升、自宅に夏みかんの木が3本もあれば子どもを上級学校に入学させることができる事、明治30年代には、萩町の財政の8倍ほど夏みかんで、収益があったなど話すと、とても喜んで「そんなに夏みかんって凄かったの」と話が弾みます。もちろん、松陰先生の話は、欠かせません。「楽しかった」「よく分かった」「また来ます」と言っていただけるようにガイド一同お待ちしております。

守衛・清掃班

【守衛作業】

通用口の開閉、通用口利用者の確認、到着荷物や郵便物などの受け渡しを日々誠意ある対応を心掛けながら行っています。（男性４人で活動）

【清掃作業】

来館者はもちろんのこと全員が入館から退館まで快適に過ごして頂ける様に館内外の清掃をはじめ、各庭の手入れ、またはお客様の使用済みスリッパ拭きを守衛の方々の協力を得ながら行って清潔度を保っています。いつ、どんな時にも明るく元気に声掛けをモットーとして。（男性１名、女性６名で活動）



ショップ班

ショップでは、館の収蔵品をもとにしたオリジナルグッズ、また、手に入りにくい図録・書籍を販売しています。

企画展、特別展に合わせて模様替え･陳列も変更し、展示の内容に合わせた商品を入荷します。新商品を入荷する際には商品審査会を開き、地元萩にこだわった納得のいく商品のみを店頭に並べています。最近では、館オリジナルのグッズも数点企画販売されており、アクリルキーホルダー入りガチャポンなど、大人にも子供にも人気です。年間のイベント時には福引（ガラポン）なども行ない景品を準備して盛り上げています。

ショップとしては、萩にこだわった商品を選ぶことが大変難しいところです。



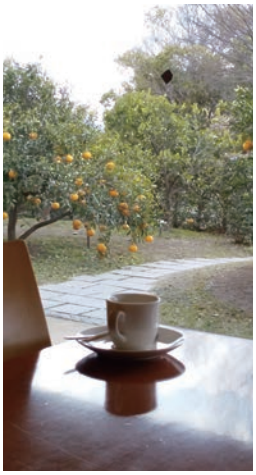
レストラン班

レストランでは、地産の食材の美味しさを提供する事に努めております。

季節季節の魚、野菜、くだものをスタッフとしてお客様にお届けする事がレストランの使命ではないかと感じております。

最近では、新たにシマフグのから揚げ、明木の自然薯など、今まで知られていなかった食材を使用したメニューにも取り組み、大変好評を頂きました。

これからも次の世代へ繋げ、子どもからシニアの皆様まで、私たちの町のレストランとして愛される事を祈っております。



松陰記念館班

道の駅「萩往還」の中央にあります『松陰記念館』は、平成22年３月より萩市直轄の記念館としてリニューアルオープンしました。運営管理をNPOまち博が受託し、メンバー7名がおもてなしを行っています。松陰先生に関する資料の案内はもちろん、萩の入り口としての観光案内等幅広い活動を楽しんでおります。

当館のすばらしい資料や、我々の「おもてなし」が評判となり最近は年間12万人を超えるお客様で賑わっております。館内には実物大の「松下村塾」で松陰先生と門下生の講義が聞けるようになっています。先生と門下生の問答は、お客様はもちろん私達も何度聞いても心に残るすばらしいものです。

もう一つの目玉は、萩の中心地、川内とその周辺を立体的に作った観光と歴史の案内です。私達もこれを活用し、お客様に分かりやすい萩観光の案内をしています。

令和元年より松陰先生等の関連グッズ、書籍の販売を開始しました。商品が特殊なショップとして、松陰先生や高杉晋作ファンの方々の評判となりました。観光客の方々にも好評を頂いています。



歴史班

NPO萩まちじゅう博物館　学芸サポート 歴史班の紹介をします。

萩市の古民家には多くの、襖、額、古書籍等が眠っており、当時の方々の生活・文化を知る上で、貴重な記録とされたものが沢山あります。当時、紙が大変な貴重品として大切に使われていた時代です。従って、古文書類の最期は襖等の補強材として下張りに使っていたのです。この事が幸いし、光にも空気にも触れず保存の良い状態で何十年、何百年を経過し、運よく当時の人の書かれた文書等が、残ってきたという経過があります。この襖を剥がし古文書類を今に生き返らせる作業をしています。先の偉人、賢人の手紙類が出ることもあり、毎回「ワクワク・ドキドキ」と作業を楽しんでおります。



天文班

天文班は萩博物館が放課後の児童保育を始めた時に、天文分野のお手伝いをすることから活動が始まりました。現在は、毎週金曜日の午後と夜間の観望会のお手伝いを主にしています。

その内容は、

●午後の部〈13：30～16：30〉
天体観望室および望遠鏡の説明、太陽の解説、その他天文業務の補助を行っています。

●夜の部・星の会〈19：30～21：00〉
観望会の補助、季節の星空案内、その他雲や雨の日は、やさしい天文講座を楽しく行っています。

☆天体観望室（２階）は入場無料です。

☆午後・夜間とも時間内なら、いつ来られて、いつ帰られても自由です。

どうぞお気楽においでください。



あい班

できる人が、できる時に、できることを楽しく、永くをモットーに活動を始めて十数年が経ちました。

萩地域のタデアイを栽培し染色の技術を研究しつつ継承に取り組んでいます。

学芸員の方や先輩方の意見を参考に、ショップではハンカチやバンダナの販売もしています。また、川上小学校の生徒さん達ともあい葉の栽培に協力支援を続けて、広く萩地区に広がっていくように頑張っています。



古写真班

古写真班は、学芸員サポートとして、月に２回“できる事をできる時に”と活動しています。

内容としては、博物館に収蔵されている20万枚以上の写真のデータベース化、寄贈された写真のデジタル化、古写真の新旧比較撮影、目的別作品の制作、またそれら作品の展示、浜崎、平安古、田町などでPRを行っています。

古写真の存在、内容を幅広く一般の方々に知って頂ける様データベース化の推進、制作作品の公開展示を通じてPRしていきます。



レコード班

博物館には市民の皆様から寄贈された沢山のレコードが有ります。私達はそのレコードを「萩市民共有の財産」として整理・保存し、活用していく事を目的として活動しています。

活動日は毎月第一・第三金曜日の午後、レコード毎に番号を付け、台帳を作成し、収蔵庫に保管しています。その数も段々増えてきた為、今は曲名・演奏者等で検索し、そのレコードの有無・所在箇所が一発で分かるようなシステム作りも並行して頑張っています。現在「長屋門くらしの館」内で、テーマを決めてレコードやジャケットの展示を行っています。

時にはレコードを聴きながら楽しく作業をしたり、また、萩市の祭りや催し場に出かけ、レコードジャケットの展示やレコード演奏会を行い、博物館のイベント時でも同様に、音楽で会場を盛り上げています。



最近また見直されつつあるレコード、その持つ魅力を十分に引き出し、皆様と一緒に楽しめる企画を考えていきます。

民具班

古い生活・生産等の道具・民具を通し、先人の知恵と技を後世に伝えるお手伝いを行います。

みんなで、昔懐かしい資料の清掃・整理・展示・保存等を楽しい会話とともに作業を進めております。

長屋門で「昭和の暮らし展」を開催しております。また、５月には懐かしい「昭和の遊び」を楽しんでいただけるように「おもてなし」をいたします。是非遊びに来てください。



チーム歩隅見

北海道大学西山徳明教授の発案により、NPO萩まちじゅう博物館が設立されて20年、チーム歩隅見は古地図を観ながら７コースのまち歩きを行っています。江戸時代の痕跡や町割を県内外の皆さんにご案内させてもらっています。

萩のおたからを知ってもらい、また少しの自慢もさせてもらいながらお客様と楽しい時間になるよう約２時間あまり歩いています。



萩セミナーハウス

萩セミナーハウスは、2011（平成23）年11月から、萩市より委託を受け、指定管理の開始から、14年の年月が経ちました。職員は、その間、何度か入れ替わりながら、現在、常勤・非常勤職員（指導・事務・管理ほか）４名、パート及び専門職員（宿直・清掃・管理・食事提供）４名の計８名で、管理運営を行っています。

萩セミナーハウスは、世界遺産「城下町」の中心に位置しており、周囲は自然豊かであり、歴史と文化が融合した、他に類を見ない教育環境が整った立地条件にあります。この教育資源を最大限に引き出し、「自ら学び、自らの可能性を信じ、未来へ向かって挑戦することができる」次世代を担う人づくりをめざしています。

また、Wi-Fi環境が整備され、利用者の利便性も高まり、充実した研修へとつながっています。今後もこの環境を充分に活かし、利用者の研修目的が達成でき、成果が上がるよう、職員全員が一丸となって支援していきます。



ひとことメッセージ

守衛・清掃班　小野 哲志

一清掃員の思うこと

退職して毎日家の中でゴロゴロ過ごすこと半年、そろそろ体が鈍ってきた頃に、当時の副理事長から声が掛かりお世話になる事になったのが3年半前。仕事の内容は清掃員、とは言っても屋外の作業ばかりで、いやぁ～鍛えられました。今も鍛えられっぱなしです。でも、同じ守衛・清掃班の人達は皆話し易く良い人ばかりで、仕事の日は結構楽しんでいます。

周りは萩の歴史や文化に詳しい方達ばかりで、更に専門分野を持たれている学芸員の方も多く居られ、聞き耳を立てて知識を吸収するのに大忙しです。

夏は暑いし冬は寒い、腰は痛いし肩は回らん。But　楽しくて勉強になる良い所です、萩博物館は。

来館者の方々にはそれに加えて「綺麗で清々しい、もう一度行ってみたい博物館」と思われるように頑張っていきたいと思います。



副理事長　二宮　勉

NPO萩まちじゅう博物館設立20周年記念を迎えおめでとうございます。

2004年11月設立当時からNPO萩まち博の基礎作りを行われ、10年で不動の組織とされ、それから20周年を迎える事ができました。めでたく表彰された34名の皆様の並々ならぬ努力の賜と思います。心より御礼を申しあげます。また、会員の皆様の熱心な日頃の班活動に支えられていると思います。この20周年の記念にあたり多くのイベントが開催されました。今回、初めて挑戦をされました「萩・着物コレクション　in　博物館」は30人の市民モデルの方が博物館の石畳を歩かれ、日本一着物の似合う町に出演され、素晴らしい調和に各方面から絶大な好評を頂いたと思います。参加された皆様、誠に有難う御座いました。また、春日保育園児の太鼓演奏は博物館に強く響き渡りました。各班の皆様が日頃の活動成果を発表して頂き素晴らしいものとなりました。萩まち博推進課、学芸員の方々のご指導とNPO萩まち博の一体感の現れだと思います。本日より「育んだ20年・これからの挑戦」の始まりです。



ガイド班　伊藤 治美

月日の過ぎるのも早いもので、あれから20年が経ちました。吉田松陰先生のことばの中に「飛耳長目（ひじちょうもく）」という言葉があります。たくさんの人達との出会いの中でいろいろな事柄を聞いたり見たりして多くの事柄を体験したり経験もして来ました。ここで見たり学んだことの多くが自分にとっても大きな財産です。これからもまだまだたくさんの事を学んでいけたらなと思います。



守衛・清掃班　井町 弘子

来館客から「掃除が綺麗にされてますね」の一言がとても嬉しい。館内には「松の庭」「晋作の庭」「日本庭園」「竹の庭」「もみじ庭」があり、もみじの紅葉をカメラのシャッターを押す姿をみかけた時には庭の手入れをして良かったと思う。館内だけでなく外の石の小怪にはハギの花やナンジャモンジャの花が季節によって花ざかりになる。館内だけでなく外回りも来館者の心が癒されるよう掃除を心がけたいと思



事務局　井町 和美

「幕末って何時代？」「パソコンどう使うん?」って言ってた私ですが、NPO萩まちじゅう博物館に入って、会員の皆さん、事務局の皆さん、萩博物館の職員の皆さんに助けられ、何とか20年やってこられました。感謝の気持ちでいっぱいです。NPOの発展の為に大きなことは出来ませんが、会員の皆さんの話をよく聞いて、たまには「荷ほどき人」になって、みんなで協力して楽しく活動出来る「NPO」を作りたいと私は思っています。



ショップ班　中野 サヨ子

私がショップ班の活動を始めたのは退職後、少しでも社会とのつながりを持ち続けたいと願ったのがきっかけでした。そんな私が博物館開館20周年に立ち会えたことは、偶然とは言え幸せなことだと思っています。

私達ショップでは、「いらっしゃいませ」のかけ声と共に展示関連のグッズや書籍、お酒をはじめとする地元のおすすめ商品を取り揃えております。

これからも入館者の皆さんに手にとって頂ける様な商品、またスタッフがおすすめしたい商品を取り揃えて入館者の皆様をお迎えしたいと思っております。



松陰記念館班　川久保 忠人

設立20周年おめでとうございます。

設立当初よりNPOの運営や、まちじゅう博物館構想のPR、情報発信に関わらせて頂き感謝に堪えません。80才を過ぎても元気で皆様と活動出来るのは、正にNPOまち博のご利益と思います。

博物館の内外はオープンして４～５年でかなりの手直しと変更が行われました。①東門から博物館正面入り口迄の左側の生垣は２m近くありましたが圧迫感と庭園の全景が見えないので50cm程カットしました。②ソフトクリームをレストラン前庭から買えるように新しい飛び石を設置しました③館内の４ケ所の庭は地肌が醜いので白玉砂利を入れ波紋を作りました。④レストランの出入り口からエントランスが見えない大きな白壁を撤去し広々としたエントランスが出来ました。⑤ショップの存在が入館者に解かりにくいので全面配置替しショップの効率と業績向上に成功しました。等々有りましたがこれら全てが当時の会員数名と学芸員達との官、民が協力して現在の「おもてなし」が出来る様になりました。



萩市の博物館としてこれからも官、民が協力し、何時も新鮮な「皆様に愛される」ミュージアムでありたいものです。

ガイド班　尾崎 洋子

ガイドで出会った人々

1、師走のある日、ブラジルからの老夫婦と孫、「夏みかん食べたい」
会員の一人が届けてくれた。届いた礼状には、萩に行ってよかった。私は北海道の炭鉱夫だったと…

2、開館時、戸籍のルーツを知りたいとの入館者でてんやわんや、市役所やお寺を紹介した。不明のまま北海道に帰った人、その後調べたら町人町にありました。直ぐに知らせました。

3、中学生程度の言葉でいいですか、それがいいで始まったガイド、とっても私の歩き方を心配されました。その後大学の教授と知ってびっくり。

でも今も交流しています。出会いは大切にしたいと思っています。



研修班　馬屋原 務本

「馬屋原家を紹介」

令和７年２月14日（金）に、研修班の活動として「馬屋原家」について発表した。発表内容は、「馬屋原家の家系」「馬屋原家の美」そして、「馬屋原家の庭」である。「馬屋原家の家系」では、系図を頼りに私も知らなかった馬屋原家の歩みを知ることできた。「馬屋原家の美」では、「花南理の庭美術館」が所蔵する毛利家拝領の美術品をはじめ山水画・仏画・花鳥画・屏風画の数々を紹介した。最後に「馬屋原家の庭」では、来年度「国登録文化財」になる予定の庭の選定資料を示し、武家風の庭と煎茶を楽しむ庭の二つの面をもつ百有余年の歴史のある古庭を紹介した。発表内容をもとにした冊子を作ることを約束して発表を終えます。



ひとことメッセージ

外国語班　黒川 建一

私は筑波大学から少し北部にある文部科学省の筑波研究所で3か月間日常生活で“No Japanese”の生活をしたことがあり、当時横浜国大の長谷川潔教授から、あなたは萩から来ているとStevensonが書いた“the story of Yoshida Shoin”という英本をいただいた。それから、県からの依頼をペルー（スペイン語圏）の駐日ペルー大使夫妻から短期に偉大な人物を輩出した理由を説明してほしいということから担当。まず“Hagi 市のcity scape”から始まる英文資料にin the circumstame of 永育薫陶大変感動、館内の“Tour guide”では終えて後“Comments”書いていただいていて今年度来られた国や地域の地図を書いていただいた。ふれあいの日の音読体験では“うらしま太郎”の英訳本が好評。細田班員を中心に“The wonder land in Hagi”国内外の来館者から好評をいただき感謝しています。



ショップ班　高洲 恵子

みんなの温かさに感謝。

また来たいなと思ってもらえるような博物館になるようお手伝いができたらいいなと思っています。



ショップ班　野村 歌美

いろいろな方のご縁で博物館で１年になります。その年が開館20周年とはありがたい節目です。

有償・無償にかかわらずまわりの皆様の関わりが素晴らしく凄いと感じました。来館されたお客様のご意見や質問は、すぐに調べ、皆で共有して教えて頂いています。

新しく出会えた方を見習って頑張りたいと思っています。



レストラン班　藤田 明美

「NPOってなんだろう？」その中でよく聞く言語がボランティアだから…

20年前の設立当時の世の中は景気が良く、余裕もあったように思いますが、この数年息苦しい世の中になってしまいました。協力して乗り越えていかなくてはなりませんね。

博物館が衰退してしまわぬよう祈ります。



守衛・清掃班　泉 和子

平成29年から清掃班に入り、ボランティアは花と緑の推進班に入っています。

仕事は月10日程度ですが、体を使う仕事なので結構きついと思う事もあります。お客様から「キレイにしてますね」という言葉かけて頂くと頑張りがいがありますね。班の皆さんと協力しながら来館されるお客様が気持ちよく過ごされるよう館内・館外の清掃に気を付けようと思っています。



ショップ班　坂本 恵子

いつもショップの中からが一番見えるので玄関口や外通路のお客様の見守りや心配りを心掛けています。

お食事なども博物館の中でお魚料理は予約ですけど、萩のむつみ豚の醤油麹焼き、見蘭牛カレー、長州鶏の親子丼、おうどんに付くわかめむすびが美味しいと、このお客様だったらと言うふうにお勧めをしています。

やはり自分が旅行先で分からない知りたいと思う気持ちは一緒と思うので喜んで帰っていただきたいです。

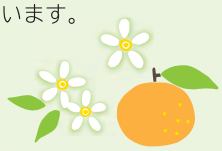


レストラン班　厚母 みよ子

初めて訪れた時の印象は、「レストランへようこそ！」庭の夏みかんがそう言って迎えてくれる美しいレストランだと思いました。

５月にさわやかな香りで迎えてくれる夏みかんの花に始まり、変ってゆく大きさや黄色の実を眺めながら。四季を通して萩産の食材を使ったメニューにこだわり20年。スタッフ一同頑張っています。

最近は外国人の方も増え、「美味しかったです」と言われることがとても嬉しく思います。



レストラン班　白井 章子

20年前NPOのさきがけとして、全国から注目されスタートした萩博物館！！関連の歴史の会も沢山作られとても充実した20年だったと思います。晋作会の発起人として参加した主人も今年、３回忌をむかえます。今振り返ると、とても思い出深い日々だったと思います。会員の方々との各地を歴史と博物館で巡る旅も好評で回を重ねました。今私は、縁あって博物館のレストラン勤務２年目をむかえます。日々、リフレッシュしながら毎日を大切に、年を重ねていけたらと思っております。



民話語り部班　伊藤 邦恵

「屋根のない博物館」に形の無いものを残したいという同じ想いを持ったメンバー達と立ち上げたのが、「民話語り部班」です。市や県、そしてNPOの皆様のご支援・ご協力をいただき、多くのイベントに参加させていただき現在に至ります。

上演時のお客様との会話や拍手に励まされ、心踊ります。20年の歳を重ねた「古き雛たち」はこれからも、人生経験を生かし、味わい深い語りで来館された皆様は元より市民の皆様にも萩の魅力を伝えて参ります。



ガイド班　山根 千鶴子

博物館の過去・現在・未来に向けての思い

関西から萩に帰った翌年の平成16年に博物館が開館、令和６年に設立20周年を迎えました。ガイド班に入って15年位、続けられている大きな力は、折りに「博物館に来て良く分かり楽しかった、また来たいね」といったお客様からのコメント、喜んで頂けるからです。これからも萩の豊かな自然・文化・歴史が展示されている館内を、ゆっくりご覧いただきながら「ストーリーをもって笑顔で楽しく分かり易く」をモットーにご案内したいと思います。

時代の変化と共にお客様のニーズも多様化しています。萩でしか見られない町並み、自然の風景、萩の食…を楽しんでいただく中で萩の歴史にも触れ知っていただき、リピーターとなり萩に、博物館に来館頂けるように10年先の未来に向けて新たな気持ちでと思い、また次世代を担う方々に継承していくことも大切と思っています。



ショップ班　蒲 眞由美

博物館NPO会員になって思ったこと

私が博物館NPO会員の一員となり３年が経とうとしています。

そもそも軽い気持ちで始めた活動でした。しかし、すぐに自分が博物館を含めNPOの活動についてよく理解できていない、そして何より自分が今住んでいる萩に関して驚くほど知識がないということを思い知らされました。何もできない自分はどうしたらいい?と考えた結果、自分にできることをしよう、そして「役に立とう」と気負わず今を体験しよう、と思った。そうしている間に何か分かってくることもあるでしょう。そう思ってから３年、少しずつ館のこともわかってきました。

今では、館で一緒に活動する皆さんに元気をもらい頑張ろうと思える気持ち、これが一番です。これからも皆さんと一緒にお客様をお迎えします。



ひとことメッセージ

チーム歩隅見　植木 功子

2004年11月11日博物館オープンの2年後の2006年10月、62歳でUターンした大阪育ちの私が萩を知る。とても楽しいお宝だらけの場所でした。お得な「年パス」がものしりの本に出会って「終生無料のパス」になり、そのお礼に館の草取りなどさせてもらうつもりで伺えばNPOの活動の事を教えて下さり、以来どっぷり何かと博物館にお世話になっている日々です。

今20周年を迎えたという事は「大阪を出て18年、萩に住み18年」と数に弱い私でも即答！62歳からの18年は貝の名前の記憶力を狭めましたが、それに引き比べ博物館はこの先も萩になくてはならないものとして博物館の上の空のようにどこまでも広がっています。



ガイド班　二宮 泰子

20周年を迎えて!!

萩博物館設立20周年おめでとうございます。

私はガイドとして途中からNPO萩まちじゅう博物館の一員となりましたが、来られたお客様は「立派な博物館ですね」と話され、展示室に入られすぐに目に入る「2009年の航空写真」を見ながら、「萩の町は、三角州の中にできた町です」と話すととても感心を持って聞いてくださいます。博物館の位置、城、寺町、人工の川、上級武士の住まい、藩校明倫館、松下村塾等。そのあと、リュウグウノツカイ、生物、歴史、と見学され、「萩には素晴らしい人物が多くいらっしゃるのですね」と話され「楽しく拝見しました」との言葉に「ありがとうございます。またどうぞご来館下さいませ」ととても嬉しい気持ちになります。

お客様に喜んでいただけるように頑張ります。



まち博おたから情報班　秋田 華子

20周年？早いものです。博物館内のたち上げ協議会に参加させていただき、レストラン班での活動をしました。利益向上のため頑張りました。10年間大変忙しい日々もあり、いろいろな人達に協力もいただきました。今では苦楽を共にした会員さんから「あの時は良かったね。楽しかったね」と声をかけられます。20周年記念日に参加させていただき、懐かしい顔が見られ大変喜んでいます。

ボランティア班で10年活動させていただいております。「まちじゅう博物館」の会員になって楽しかった事は

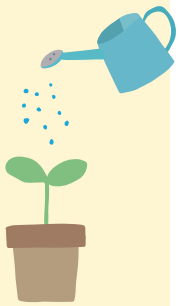
①萩市を深く知る事が多くあり、人々との交流も多くなりました。館内の企画展やイベント参加、各班での研修に参加させていただく事が多くなり、知識もいただいたように思います。

②亡き母は松陰先生がとても好きで、私達子どもに話しかけてくれてましたけど、右から左へと流れていました。今では懐かしく思い出して研修や講義に参加させていただき頭に残るようになりました。

③会員として楽しませていただいているボランティア班「花と緑の推進班」、「まち博おたから情報班」でいろいろ知識を学び感謝しています。「花と緑の推進班」での知識で小・中学校での活動に参加させていただいています。

「まち博おたから情報班」では、地域のお年寄りとの交流で喜ばれてます。毎回多くの人（60名）が楽しみにされ、「季節の風物詩」「お寺がおもしろい」等、会員さん全員参加の上熱心に動画や博物館玄関前の動画で一本槍と草履とりの動画を楽しまれ、皆さんに感謝されます。

地域の人達の笑顔を忘れず今後の活動に頑張ろうと思っています。



守衛・清掃班　川久保 すみ子

萩博物館オープン20周年を迎えました。

市立病院や市営住宅の跡地に立派な博物館が建ちました。ここが萩の観光の拠点です。オープンして初めてのお正月は雪でした。東門からお客様の通り道に雪が積もり、館長をはじめ皆で雪かきをしました。とても寒かったのですが、お正月三が日で約2,000人のお客様が来館されにぎわいました。

後に、とっても暖かい黄色いジャンバーを清掃班に買って頂きました。寒い朝でも頑張って外回りの掃除をしています。

これからも来館されるお客様を大切にし、気配りしていきたいです。



自然おたから班　山本 憲二

私がNPO萩まちじゅう博物館に入った理由は、認知症、うつ病を防止するためです。班で作業、仕事をする時は、気持ちが張り切ってとても健康に良いです。作業、仕事は私は役に立っていませんが目的を持って生きることは素晴らしいことです。貝殻採取時は、この上ない素晴らしいコレクションで楽しく、とても良い運動になります。子供の時の遠足と同じ気持ちで、それを楽しみに毎日の生活、気持ちが元気になります。汗を流して土作業をし、花を育てていくと新しい命が芽生え、大きな花が咲くと自分の命も生きかえります。

活気と生きがいを持って、小さくてもよいから希望を持って生きることは素晴らしいことと思います。私は今、83歳ですが、この調子ですと認知症が出るのは10年以上先になりそうです。



ショップ班　細田 ひとみ

村上泉さんから「今、何しとるん？」、「専業主婦です」と答えたら、「今博物館が募集しているよ！」と答えて下さった。博物館の入口もわからない私に林理事さんの対応に安心したこと、ショップの木原さんが「入るなら今よ！一番覚えられるよ！」の言葉に即ショップ!!令和５年８月から仕事を始め、する事、見る物、聞く事、全て私には新鮮で、ショップのメンバーに心強い井町さん。お客様には萩の良いところを覚えて帰って頂くこと。外国語班は海外の方への対応ができる様に勉強も楽しいことばかり

だって“大切な残りの人生だもの”

博物館20周年を支えて来られた皆様のおかげで今、私は楽しんで仕事をしています。ありがとうございます。



天文班　長岡 睦夫

設立20周年に寄せて

萩まちじゅう博物館が設立して20年になった。当時はまだ好奇心いっぱいな頃で「何でも見てやろう、聞いてやろう」と活動に参加したものだが、結局は民具、天文の二部門に落ち着き今に至っている。

しかし、20年という時は怖いもので、例えば天文では最初、基礎学習で「〇〇の法則」や「スペクトル」などと専門用語が出ても教わるうちに何とか分かった（気がした）ものだが、今はなかなか身に入らない。20年も経てば「老化」の二文字が頭をよぎる。でも、これは仕方がないこと。今日が一番若い日（昨日には帰れず、明日は一日老いる）気楽に思いながら、今日も仲間と楽しくやれたらと思う。



ガイド班　郡司 妙子

笑顔で分かりやすいガイドを目指して

明るい笑顔を絶やさないよう日々新たな気持ちでお客様をお迎えしています。日本各地や海外からのお客様に貴重な展示品をじっくり見ていただき、良く分かったと満足していただけるよう配慮しています。

大阪からの夫妻、念願の北浦の地、萩に来ることができたと喜んでおられました。この地が、明治維新発祥の地で、その過程で多くの志士たちの犠牲の上に近代化が達成されたことを忘れてはならないと思います。お客様との対話で自分の国の事を詳しく話され、逆にお客様から教えていただく事が多く感謝しています。土塀越しの夏みかん、風情のある景観に心が和み癒されますとまち歩きの良さを実感されておられました。

今後も笑顔を絶やさずお客様に分かりやすいガイドを心がけていきたいと思います。



ひとことメッセージ

レストラン班　池永 真由美

20周年おめでとうございます。博物館の会員になり、レストランに入ることになって私も4月で20年になります。振り返れば“笑”、“泣”、“驚”、“怒”出来事がありました。最初入った頃はお客様も多く売上げも順調でしたが、コロナ禍から売上げ激減。でもいろいろ試行錯誤しながら新しいメニューを考案し、皆で協力してやってきました。出会いと別れ、たくさんありましたが関わってくれた人達に感謝してます。

「レストランに行ってよかった」と言ってもらえるように、気配り、目配り、敏速な対応、誠実、謙虚、感謝の気持ちを忘れずにおもてなしをしていきたいと思います。

これからもレストランをよろしくお願いします。



自然おたから班　末永 美智子

私の20年…。

2004年　秋　萩博物館　オープン。NPO会員になり私の第二の人生がスタートしました。

受付の仕事につき初めは戸惑いもありましたが、たくさんのお客様をお迎えし「萩のよさ」を伝えらえたと思います。また、自分磨きのため「萩の歴史とまち歩き」、「美しい海での貝採取」、「イベント」などのボランティアにも参加しています。たくさんの仲間と一緒に活動が出来たことは私にとって有意義な20年でした。

これから何年、萩博物館、NPOボランティア活動に関わることが出来るかが分かりませんが、体力の続く限り続けていこうと思っています。



守衛・清掃班　神村 美智子

入館者を迎える立場、お客として迎えられる立場、両者とも共通して言えることは、快適に時間を過ごせたかどうかです。心優しい声かけ対応、そして行き届いた清掃の環境づくり、毎日の地味な努力こそが、現在の20周年に繋がったのではと思いたいですね、会員（清掃班）の一人として。

この先5年、10年先も、時代にあった新企画に挑戦しつつ、萩博物館の顔（展示物）をいかに気持ち良く見て、感動して、また再来館して下さることを願いながら、環境づくりの裏方の手助けになれたらと思っています。



ショップ班　木原 紀子

私にとって萩博物館は、何度か伺った事があるという程度でNPOの活動については入会してから知る事ばかりでした。

生き生きと活動され、充実した時間を仲間と共に過ごしていらっしゃる先輩方の姿を見て、私の10年、20年後も大丈夫だと感じワクワクしました。

設立20周年を迎え、私も入会してから10年近くが過ぎていました。全ての企画ができたわけではありませんが、一人ではできない事をたくさんさせて頂いていると思います。

私にもNPOの活動を教えてくださった人があったように、まだ私たちの活動を知らない方々にもどんどん飛躍していただきたいと心から願っています。

設立20周年を大変誇らしく思うと共に、これからの20年を楽しみにしています。



天文班　松本 乙梨恵

萩から世界平和を発信

萩に移住して一年半。

「萩まちじゅう博物館」のマップを見て、それぞれの部署が単独ではなく一つの心で、内外からのお客様を町中で「おもてなし」したいという思想が素晴らしいと思いました。

萩中、皆が一つ心で思いやり、世界平和を願って「世界平和は萩から」と言われるような所になり、訪れた人々が「あそこに行けば平和、幸福な気分になる。また行きたい。」と思われ、「萩に移住したい」と思って頂けるように、どこでも笑顔で真心のおもてなしができたらと思っています。



受付班　浅井 智子

設立20周年おめでとうございます。設立20周年だとお客様にお伝えすると変わらぬ美しさにいつも驚かれます。萩博物館は、萩市の顔であり、訪れるお客様をお迎えする玄関口のようなものではないかと思っています。

これからも、萩市の美しいところ、楽しいところ、歴史を感じられるところなど分かりやすくご案内し、良い思い出としてお客様の心に残るよう精一杯の接客をしていきたいと思います。

美しい博物館として、末永く続いていくことを期待しています。



守衛・清掃班　中村 敏子

正門東門からの入館の折の印象が、まず最初大切と思います。館内でゆったりとした気持ちで見学できる清潔な環境、雰囲気づくりをしたいと思います。

スタッフの連携と笑顔、優しい声かけが嬉しくありがたいです。気配りのできる班を目指したいです。

数年前知りました。萩市の御衣黄桜の気品は見事です。

今年も必ず御衣黄桜と会いたいです。



レコード班　小見山 薫

“20年”生まれた子供が成人になってしまうほどの時間が経過したと思うと何とも言いようのない気持ちになります。そして節目の時を一緒に迎えられて嬉しく思います。

私は、イベントでしか来館者の方々と接することがありませんが、レコードという共通の話題に思い出話をしながら相槌を打ったり、笑ったりと楽しい時間を過ごしてます。皆さんが同じ気持ちだったらいいなぁと思いながら…。

これからも、楽しみの種を蒔いたり拾ったりしながら少しでも長く関わっていけたらと思います。



ガイド班　繁澤 征夫

私はNPO萩まちじゅう博物館の発足を知り、最初に挑戦したのが「萩検定」でした。定年より４年前のこと。合格を機に館内ガイド班に入会しました。以後、企画展や特別展ごとに学芸員の方の指導と共に先輩からのアドバイスを受けました。日常、お客様を御案内する時、極力会話のキャッチボールになればと思いながら進めています。

本日までの思い出深いガイドは、約7年前、昭和の大女優の方を約20分間御案内した時です。今一度は、岡山からの紳士、ライフル協会の方、大変聞き上手で私自身が勉強になりました。

最近の館内は、静かでお客様と対話する機会が少なくなりました。「萩博物館20周年」これを機に定期的に目玉展示、インパクトブースの設置はいかがでしょうか！！



永井 要明

萩博物館の歴史的展示について

萩市の歴史について、幕末から明治維新にかけての時期が一番重要であることは私も周知しています。しかし、そればかりではマンネリになってしまい新鮮味が出せないと思います。室町時代、鎌倉時代、平安時代の展示も時々やってみてはどうでしょうか。意外と多数の入館者があるかもしれません。

幕末についても、吉田松陰先生達が活躍する前に村田清風の大改革があります。百姓一揆が頻発していた時期に村田清風を起用し、まず財政改革に成功し、次いで軍制改革、教育改革（明倫館など）に成功します。村田清風の改革がなければ吉田松陰などが活躍するチャンスはなかったと私は思っています。長門市三隅の清風記念館から資料を３ヶ月位借りて、村田清風の特集を行うのも一興では。



2004 (平成16)年	6月	NPO萩まちじゅう博物館　設立（9月に特定非営利活動法人認証） 初代理事長に高木正熙氏就任
	11月	萩博物館・萩まちじゅう博物館開館 NPO萩まちじゅう博物館による萩博物館、旧久保田家住宅の管理運営業務受託開始
2005 (平成17)年	1月	ワンコイントラスト開始 ボランティアメッセ2005in萩を開催
2006 (平成18)年	4月	井上勝旧宅門修復竣工（ワンコイントラスト１号）
	6月	2代目理事長に久保田拓造氏就任
	10月	猿田彦面山車修復完成（ワンコイントラスト）
2007 (平成19)年	1月	NPO萩観光ガイド協会設立（旧久保田家住宅の管理を移管）
	7月	平安古備組道具類の修復（ワンコイントラスト）
	7月	筋名復活事業開始（まち博推進班協力）
2008 (平成20)年	8月	長州砲が英国より里帰り（ワンコイントラスト）
	10月	御網代車の修復（ワンコイントラスト）
2009 (平成21)年	1月	NPO萩まちじゅう博物館HP開設
2010 (平成22)年	3月	道の駅萩往還・松陰記念館　管理運営業務受託開始
	10月	高杉晋作立志像建立（ワンコイントラスト）
2011 (平成23)年	2月	萩おもてなし大賞受賞
	4月	萩データベース構築事業開始（受託事業）
	6月	語り部育成講座開始（受託事業）
	11月	萩セミナーハウス指定管理開始

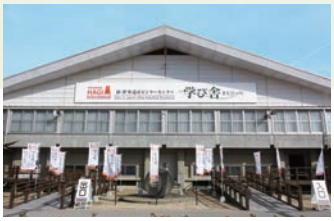










2012 (平成24)年	3月	萩データベース公開	
	6月	萩の物語記録事業開始（受託事業）	
2013 (平成25)年	7月	萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業開始	
	8月	７月末に発生した萩市東部集中豪雨災害にて被害を受けた須佐歴史民俗資料館の資料レスキューに参加（あい班、民具班ほか会員有志）	
	12月	日本ユネスコ協会連盟 プロジェクト未来遺産に登録決定	
2014 (平成26)年	6月	3代目理事長に須子義久氏就任	
	11月	NPO萩まちじゅう博物館10周年記念活動発表会	
	11月	開館・設立10周年記念式典	
2015 (平成27)年	1月	NHK大河ドラマ「花燃ゆ」放映開始 久坂玄瑞銅像建立（ワンコイントラスト）	
2016 (平成28)年	1月	萩・世界遺産ビジターセンター　学び舎（まなびーや）オープン（管理運営業務受託開始）	
	9月	地域おたからワークショップ開催（文化遺産活用事業） 古地図でまち歩きガイド開始	
	11月	井上勝銅像建立（ワンコントラスト）	
2017 (平成29)年	3月	NPO萩明倫学舎設立（萩・明倫学舎への世界遺産ビジターセンターの移設に伴い、管理運営業務を移管）	
	4月	古地図ガイドチーム歩隅見（あすみ）結成	
	6月	萩食品衛生協会優良施設等の表彰（レストラン）	
2018 （平成30）年	6月	４代目理事長に田邊信氏が就任	
	9月	明治維新150年記念特別展「手塚治虫が描いた明治維新」	

2018	(平成30)年	10月	ふるさと紙芝居第２回全国大会in萩（民話語り部班）
2019	(平成31・令和元)年	7月	松陰記念館班での物販開始
2020	(令和２)年	3~5月	新型コロナウイルス感染症蔓延防止措置のため臨時休館
2021	(令和３)年	1月	古地図まち歩きガイド活動が都市景観大賞優秀賞受賞
2022	(令和４)年	1月	新型コロナウイルス感染症蔓延防止措置のため臨時休館
		4月	はぎびんごを活用し「萩城跡でおたから探し」を企画・実施
2023	(令和５)年	5月	新型コロナウイルス感染症による入館制限の解除
		6月	5代目理事長に伊藤富之氏が就任
2024	(令和６)年	11月	萩市教育文化奨励賞受賞
		11月	開館・設立20周年記念式典







（2024年11月11日）

編集後記

伊藤　富之

萩博物館のエントランスの窓越しに夏みかんの木を見ると、40年前、夏みかん畑だったこの土地の用地取得を思い出す。当時、市企画課職員だった私は、課長とともに北九州市に在住されていた所有者の方のもとをうかがった。その方のご先祖は、田中義一公の秘書をされていたとのことで、関係する遺品も多数所有しておられた。所有地を快く譲渡していただくことができ、隣接する萩市立病院の敷地と合わせ、旧大野毛利家の敷地全体が萩市所有のものとなった。

その後、郷土博物館が国道拡幅のため移転する必要が生じ、企画課の中に博物館建設準備室が設置され、現在地への新博物館建設の取り組みが始まった。今度は課長として関わらせていただいた。新博物館建設事業は、長年にわたり要望されていた重大事業であり、市民病院の新築移転、まぁーるバスの運行開始などのビッグプロジェクトとともに進めていく必要があり、市民と一体となって推進された大事業だった。

萩博物館が開館して20年が経過し、NPO萩まちじゅう博物館も設立20周年を迎えた。行政と民間とが協同してまちづくりを進めていく取り組みは、様々なところでモデルとなっている。この間の会員の皆さんの献身的な活動には心から感謝申し上げる次第である。

設立20周年という節目の年、記念すべき年に立ち会えて光栄だという思いとともに、夏みかんの木が語る歳月に改めて思いを致した。

木原　紀子

この記念誌が手に届いた瞬間、皆さんの 20 年の物語が目前に開くような気がします。編集に参加する機会をいただきありがとうございました。先輩方の情熱や会員の皆さんの笑顔に支えられ活動するチャンスに、幸せを感じます。

これからも人と人のつながりを大切に歩んでいきたい。

今後ともよろしくお願いします。

末永　留美

皆さんの活動報告を読ませていただきNPO萩まちじゅう博物館への熱い思いが伝わってきました。この情熱がNPOを支えているのだと再認識しました。

緻密な作業を丁寧に繰り返し、誰が見てもすぐに取り出せる様にデータ処理したり、次世代に受けついてもらいたいという気持ちも知ることができました。

また、私の読解力では文書の内容を理解するのに苦労するところもありましたが…。

編集に携わらせていただいたからこそ広く深く班活動の内容を学ばせていただき感謝申し上げます。

田邊　信

NPO 萩まちじゅう博物館設立から 20 年、そのうち後半の約 10 年間当法人の活動に参加し、萩の「おたから」について多くを学ぶことができた。

これからは、今回のテーマである「育んだ 20 年これからの挑戦」にあるように、活動を通して 20 年間蓄えてきた情報やノウハウを活用し、当法人が次の段階に挑戦することに協力できたらいいな。

山本明日美

NPO まち博の設立準備の段階から関わって 20 年経った今、その歩みを振り返り、皆さんのメッセージを読みながら、これまでに出会った方々のお顔がたくさん思い浮かんで、胸がいっぱいになりました。多くの方々が関わり、活動を続け、支えてくださったからこそ、今の萩まちじゅう博物館がある。そのことに感謝をしつつ、次の 10 年のエネルギーをもらえる、そんな 1 冊になったと思います。本当にありがとうございます！

発行日　令和６年12月
発行者　NPO萩まちじゅう博物館
代表者　理事長　伊藤 富之
住　所　萩市堀内355番地　萩博物館内
連絡先　0838-25-3177
ＵＲＬ　www.npomachihaku.com

